

A:達成されている B:ほぼ達成されている
C:あまり達成されていない D:達成されていない

学年	ねらい	評価項目	評価	理由
2歳	・安心して園生活を送る	・園生活を楽しみ、自分でできることはしようと	A	・笑顔で登園できるようになった。身のまわりのことを自分でやってみようとする姿も増え、周りの励ましやできたことを認めてもらうことが励みになっている。
	・教師や友だちと一緒に遊ぶ	・いろいろな遊びを通して友だちに関心を持つ	B	・気の合う友だちができ、名前を呼び遊びに誘う姿も見られるようになった。中には、一人遊びを楽しむ子もいるが、環境の工夫や教師と一緒に遊ぶことで友だちと遊ぶ楽しさを感じている。「かわって」「いいよ」など言葉のやりとりも少しずつ聞かれるようになった。
年少	・園生活に慣れ、身の回りのことをしようとする	・園生活で簡単な身の回りのことを行う	B	・生活の流れがわかり、自分の身の回りのことができるようになってきている。わからないことやできない時は、聞いて自分で取り組めるようになってきている。
	・教師や友だちとかかわり、好きな遊びを楽しむ	・身近な人や友だちと一緒に、好きな遊びを見つける	A	・友だちの名前を覚え、誘い合って遊ぶ姿が見られている。集団で楽しく遊ぶことにより、友だちを誘ったり譲ったりできるようになり、かかわりも広がっている。
年中	・いろいろなことに興味を持ちやってみようとする	・いろいろな遊びや活動を楽しむ	B	・運動遊びや鍵盤ハーモニカ等、年長児に憧れて遊びの幅が広がっている。ザリガニ釣りから飼育に至るまで興味関心を持ち、世話をしている様子があった。
	・身近な人とかかわり遊びを楽しむ	・友だちとかかわり仲間意識を持って遊ぶ	A	・いろいろな活動を通して遊びの輪ができ、友だち関係が築けている。年下の友だちとの触れ合いを通して、相手の気持ちに気付き行動しようとしている。また、自分でできることが増えて自信となっている。
年長	・自分で考えたり、友だちと力を出し合ったりして、いろいろなことに挑戦しようとする	・自分の思いを伝え合い、協力して遊びを進める	A	・様々な活動や行事を通して、自分の思いを素直に表現したり、相手の思いに気付いたり、遊びの工夫や発展などの様子が見られた。 ・いろいろな経験を重ね、新しいことにも挑戦しようとする姿が見られるようになった。
	・さまざまなかかわりの中で、思いやりやいたわりの心を持つ	・さまざまな人との出会いの中で、心を寄せたり触れ合ったりする	A	・困っている友だちに声をかけたり、手伝ったりする姿が子ども同士の中で見られるようになった。 ・小動物や栽培を通して命の大切さや収穫の喜びを味わい、お世話になった方への感謝の気持ちも芽生えた。

総合的な評価結果

評価	理由
A	年齢によっても個々によっても細かい課題は見られるようだが、総合的にどの学年もねらいが達成されていることが分かった。常に子どもの心に寄り添い、一人ひとりが安心して園生活を送り、楽しい、おもしろい、やってみたく感じ、充実感のある毎日を過ごせるよう教育を進めていきたい。日々の保育の振り返りを行い、職員が協力して豊かな教育環境を創っていきたい。

重点目標

「あいさつから始まる、共に育ち合う仲間づくり」

成果	課題
・年度当初は教師から挨拶を促し、子どもたちが返すことが多かったが、次第にあいさつの声が大きくなり、中には進んであいさつをする子も増えている。	・あいさつは人と人との心を交わす大切な言葉である。今後も繰り返し指導する。 ・大人が明るくあいさつすることが手本となるので、家庭でもあいさつの習慣を意識してもらうことが大切である。

人権同和保育

「あたたかい心で助け合い、共に育ち合う仲間づくり」
～楽しい 面白い やりたいこと みんなでやってみよう～

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・全体が一つの目標に沿って話し合い、日々の保育を見つめ直しなが保育をすすめることができた。(全体) ・子どもの言葉、行動からごっこ遊びの環境を見直し変化や工夫を行い「まだ遊びたい」「明日もしたい」という言葉が聞かれ、おみせやさんごっこが十分楽しめた。(2歳) ・4月から続けていたいろいろな表現遊びがきっかけとなり、「いれて」「いいよ」「一緒にしよう」などの言葉を交わし、仲間と遊ぶ楽しさを味わい友だち関係が育った。(年少) ・異年齢交流がたくさんできた。同学年ではできないことも経験できるので、わくわく感を持って遊び、満足感、達成感を味わった。また、助けたり助けてもらったりの経験が心を育てている。(年中・年長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で保育や取り組みの振り返りを行い、子どもの興味関心に即した環境構成、援助を今後も行う。 ・2歳のように経験が少ない子どもたちのためには、イメージが膨らむような環境を工夫することが必要である。 ・年齢的になりきり遊び、模倣遊びを喜ぶが、一つのことにみんなに向かうということは難しい部分もある。 ・本園は異年齢交流と称し、2学年での交流を様々な形で行っている。その取り組みでは子どもの様子について細かな連携・配慮が必要となる。 ・異年齢のかかわりは、何気ない普段の生活の中でも自然と生まれ心が育っている。今後も子どもたちの日常生活を通して、育ち合う姿を認め育てていく。

今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
環境	園庭や園舎内の環境整備及び、幼児の発達に添った環境構成に取り組む。
行事の見直し	年間を通して行事の見直し、改善点を子どもたちの成長に繋げていく。
幼小接続	就学先の小学校と連携を深め、共に学び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有、教育の接続を図る。
特別支援教育	個別の支援計画、個別の指導計画を有効活用した保護者、専門機関との連携及び研修参加を行う。